

大惨事よぶ国鉄の狂気

首切りセンターと現場では今何がおきている

国鉄関連法案が国会で審議が始まったばかりなのに、すでに国鉄全体は来年四月の分割・民営を既定の事実として進んでいる。ものを言う労働者を「人活センター」という首切りセンターに閉じ込め、職場では国労からの脱退の強要、安全無視の運行がやられている。首都圏の人活センターを取材した。

仕事をとりあげ隔離

東京運転区人活センター



二カ月かけて 千五百円の仕事

品川駅のとなり、田町駅から少し歩いた線路ぞいにある「東京運転区人活活用センター」。

ここには七十五人が「収容」され、十分ぐらいですんでしまう客車清掃のほかは、ほとんどの人が文鎮（ぶんちん）づくりをやらされています。レールを切ったものにヤスリをかけているところにカメラをむけると、「部外者はでていってください」と、当局がとんできました。

「こんなことをやらせて何が「人活活用」ですか。これ一個でいくらになるのですか。私も国鉄の利用者だ。答えてほしい」と怒りをおしころして追及しましたが、それには答えず、ただ「出ていってください」とくりかえすだけ。

「千五百円だよ。二カ月かけて一

個できるかどうかだ」

仕事とりあげに抗議して二月からのばしはじめたというヒゲをなでながら、福岡政（おとむ）さん（41歳）がブスツと言いつてました。

国労活動家を

職場から隔離

ここにいる人は全員が国労の組合員。

「なかまと切りはなし、職場では国労からぬけろと攻けきし、職場の労働運動をつぶすことが最大のねらいだ。身一つで行けと命令され、前の職場に作業着をとりに行くことも禁止されている。だから、ここでも各分会の協議会をつくり、不当労働行為を社会的に追及しながら、勤務時間がすぎると自分の分会にもどって活動することを基本にしている」と斉藤一（はじめ）さん（35歳）。ベテランの運転士や検査・修繕係の人たちをおいだしたあとには、労働の組合員で北海道で機関車を運転していた人などが「広域配転」されてきています。

いつ大事故がおきるかと：

昼休みに休けい所で話をきくと、つきからつきへと、おそろしい話が……。

「電車のブレーキは右、機関車は

9.11緊急抗議タデモ
成功させよう!

それは誰？

「電車を走らせながら故障箇所を
なおす仕事（派出）などは、故障の
れんらくがあつても彼らではなおせ
ないから、添乗（てんじょう）中
の札をだして、部屋にカギをかけ、
電気も消してとじこもる、という状
態すらある」

七月八日、十六時三十分より、共済館
裏門、中島武敏、中務雅弘、楠本敦吉国会議員
記者（が）が、我が「人活センター」に来た。
文藝作書場、横内と混雑したため、鳴鶴の代
表と総会にはいらした。
まづ、調査団に属したの、やうと、が報告さ
れた。

「……」
 驚愕の

— ずっと送られ、ば

「勤務成績が良くはなれ

――勘定が悪いと

「決められたことを守
俺たちと

誰がそれを調べる
橋調しなくては

「管理者、指導員など、職員管理台帳に記入し

仕でぶっなっている」

神奈川県内のB駅のホームのはずれ、「○○派出所」という看板がでいたので、ドアをたたいてみました

中にいたのは国労の組合員で、この道三十四年と十八年のベテラン。

「……」
(答えにくかった)

組合員(役員、活動家、豪者、病弱者)には

「結果としてそうなった」

「愛蔵と機関車」というちびでびきりたいてい「ポン」

——本務との手当の差は——

— 雙全支私方法は従来と異なり

「職場に取りに行くのが下

るのだ。取りに行くと時限

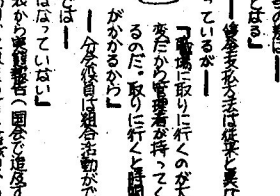
一 分令役員は組合活動が不

「先づこの世の中を治めていけ」

るので林業)があり、これをうけて各業種が

護島として夫に、実能護島に入つたの

「人材活用センター」は最上だ。



「自動車でいう車検のような『六
検』というくわしい検査を三年に一
回はやっていたが、去年からこれを
廃止してしまった。四十八時間に一
回のわりでやっていた車輛検査も、
この三月からは七十二時間に一回に
された。派出所もへらされ、故障を
なおしきれないまま電車を走らせて
くる」

「すべてが国鉄の分割、民営化と国労つぶしのためにやられている。文句を言えば仕事をはずされ余じよう人員だといわれて人活センター行き。まったく、くるつてるよ」

レールみがきの唄
これはこの世の地獄唄
創業百余年由緒ある
東京機関区の物語
聞くにつけても哀れなり

「電車と電車をつなぐところの下に高圧線をとおしてあるが、これをあつかうときは、かならずパンタグラフをおろしてからやる。彼らはそれをしないで抜きかかったから、そばにいた運転手がとびのいた。運よくケガはなかったけど、こんなやりかたをつづけていたら、大惨事がおきる。そこでぎせいになるのは乗客とわれわれ労働者だ。とくに不十分な講習しかうけずに働いている動労の組合員があぶないめにあう。そこを彼らにわかつてほしい」

經驗ゆたかな機関士が
運転席に座らずに
ペーパーやすりでゴシゴシと
レールを磨くその姿
悲しき骨身を通すなり
ひとつ磨いては吐息つき
ふたつ磨いては涙ぐみ
みつつ磨いては大あくび
日も入相（いりあい）のそのころは
首席助役が顔みせて
エヘラエヘとあざわらう
むごや口惜しや情けなや
レールみがきの地獄唄